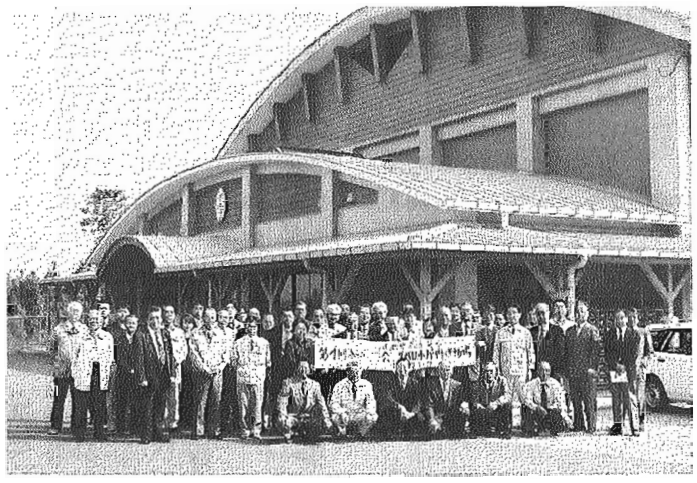
本紙主催第4回木造見学会

木ネットワーク構築を提案

「地材地建」で地域活性化

本紙主催の第4回木造見学会が22日、出水郡野田町の野田小屋内運動場であり、吉満重人町長や県林務水産部の井内祥人かごしま材振興企画監、設計担当の大原一郎氏（㈱大原設計）、大断面湾曲集成材の製作・施工を担当した山佐木材㈱の神田稔氏、町営製材工場長で助役の井町直致氏ら講師を囲んで意見交換をした。参加者は県内各地の設計・施工の関係者や行政担当者、日置郡松元町の里山で地域活動をしているNPO会員ら約50人。



講師らを囲んで参加者全員による記念撮影
＝野田町の野田小屋内運動場で

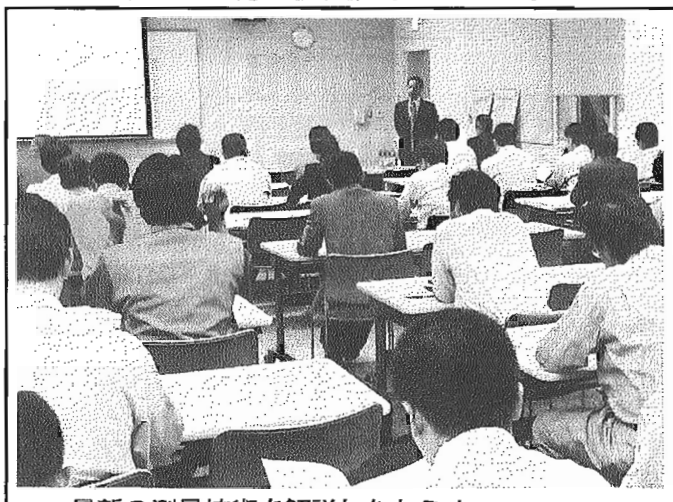
同施設は、町有林の80年生スギを使用。同町営製材工場で木材に割ってつくられた文字通り「地材地建」の建物。施工は㈱道添建設（出水市）で平成13年3月に竣工。これまでの見学会は構造現場の事業を通して木材利用拡大の可能性について参加者らと一緒に議論を深めた。

吉満町長は「80年生のスギを育てたわが町と未来について」の演題で、貴重な財産である山を育て、守るために町と町民とが一体となって取り組んできた、これまでの経緯について熱く語った。井内企画監は民間の技術を活用しながら、今後も先頭になって木材普及に取り組んでいきたいと決意を述べ、「学校木造化推進事業の意義と今後の課題」について講話した。大原氏は「学校建築における木造設計の留意点」、神田氏は「スギ集成材を軸に新たな木需要の創出」井町助役は今期で廃業を決めた「町営製材工場の沿革」について講話した。

第2部の自由討議では、参加者から「間伐材の利用促進は分かるが、間伐材で建てた家では聞こえが悪い。名称を変えた方がよいのでは」「木材の利用促進を唱っていながら、地元材を採用しない公共機関もある。苦情相談窓口を設置したらどうか」「この勉強会を発展させ、これを機会に地域の関係者に呼びかけ一大ネットワークを構築すべきではないか」といった提案がなされ、拍手で了承された（詳細については後日掲載）。

主な発言者は次の通り（発言順）。

中村れい子氏（県建築士会女性部会出水支部長）・㈱井島建設建築部）▽深水満氏（㈱道添建設）▽濱﨑昭子氏（田原産業㈲）▽橋口和行氏（大浦町建設課）▽国武次宏氏（財部町農林振興課）▽松元孝雄氏（NPO法人さとやま）▽宮崎美弘氏（㈱クリスタル鹿児島）▽遠山久敦氏（㈱イケダコーポレーション）▽福山昌男氏（マイウッドツー㈱）▽奥光洋氏（㈲奥建具製作所）▽伊達三男氏（南日本マグネライン㈱）▽新屋敷和明氏（NPO法人インフラネット）



最新の測量技術を解説したセミナー
＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

「VRS測量・使う時代へ」セミナー

コストダウンに直結

ハヤシ・システムズ・コーポレーション

㈱ハヤシ・システムズ・コーポレーション（林隆秀社長）は24日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで「VRS測量・使う時代へ」と題したセミナーを開き、測量関連業者ら約50人が出席、次世代型GPSと最新システムや携帯電話で電子基準点を利用した最新の測量技術（VRS）を学び、実際に体験した。

同日は、林社長に代わり小野剛副社長が「当初、わが社ではGPSを地すべりの環境システムに利用できないかと考え、話を聞き代理店契約を結んだ。本日の講演で電子基準点の経緯や事例、VRS測量を実際に体験してもらい良さを学んでほしい」と挨拶した。

講演では、日本GPSソリューションズ㈱の鈴木理夫九州営業所長が「次世代型GPSと最新システム～電子基準点データの全国配信と次世代型RTK-GPS netSurvの真価」について解説、測量法の改正や電子基準点の開放の二つの背景をもとに、全国の電子基準点のリアルタイムデータが配信され、低価格でより精度高いデータが提供でき、VRS技術を活用することで現場と事務所が直結し作業工程の大幅な短縮や直接経費の削減ができることから、会社のコストダウンにつなげてほしいと結んだ。

日本GPSデータサービス㈱の山本理部長が「電子基準点を利用したリアルタイム補正データ配信サービス」が紹介され、VRS測量は従来とどこが違い、どのように新しいのかについて説明し、携帯電話を利用したRTK測量で基地点（基地局）を要せず一人での作業を可能にしたほか、国でもVRSを使った公共測量作業マニュアルの素案づくり等に着手しており16年1月頃にはマニュアルを完成し同年4月からVRS公共作業が実施されると説明した。また、電子基準点も645点から931点に増えることを付け加えた。続いて、㈱かんこうの山本昌也東京支店長が「net Surv2000を使用した事例」などを紹介、受講者らは真剣に聴講していた。

また、同日はセミナー終了後、敷地内に実際に測量機を設置して観測するデモンストレーションが行われ、瞬時に位置観測ができるシステムの良さを体験した。

「省エネルギーの提案」講演会

コージェネシステム 省エネ等にメリット

日本ガス

日本ガス㈱（中間兼市社長）は24日、鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで「省エネルギーの提案」と題した講演会を開き、行政や設計事務所、ホテル、病院などから約80人が出席してコージェネレーションシステムの概要やメリット、最新の業務用ガス厨房機器などについて学んだ。

冒頭、松島容一取締役専務が「環境保全やエネルギーの効率化を図る上で、コージェネシステムは給湯や冷暖房などさまざまな分野で利用できるなど省エネルギーに適したシステムである。本日の講演を参考に各事業所で生かして頂きたい」と挨拶し、木工製作に関わる各工具類を一つ一つ説明した後、研修に入った。

コージェネシステムの素晴らしさを学んだ講演会
＝鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで

ものづくり学習生徒研修会

鹿工生が職人技を学ぶ

ものづくり学習生徒研修会が24日、鹿児島市の県立鹿児島工業高等学校で開かれ、同校建築系3年生、担当職員ら10人が参加して、技能士2人による指導のもと掛障子の製作を体験、ものづくりの楽しさや職人技の素晴らしさを学んだ。

研修会では、初めに同校の竹下兼次教諭が「作る楽しさ、技能の素晴らしさを直接実感して、プロの技を学んでほしい」と挨拶。続いて、講師の窪園和秋県木工技能士会長が「研修会を通じて、木工の素晴らしさを伝えたい。分からないことがあったら、遠慮なく聞いてください」と述べ、設計図を生徒に配布し、木工製作に関わる各工具類を一つ一つ説明した後、研修に入った。

今回は、掛障子の製作を課題に、基本的な墨付けや割付けをはじめ、穴開け、組子切り、かんな掛け、組立てまでを一日かけて行った。生徒らは技能士の熱心な指導を受け、真剣な眼差しでものづくりに取り組み、作品を作り上げていた。

ものづくりの楽しさを学んだ研修会＝鹿児島市の県立鹿児島工業高等学校で

で奈良県の会社に就職が内定している川原敏幸君は「学校にはない技能の大切さ・素晴らしさに触れてもらい、ものづくりへの関心を高めてもらうために、優れた技能を持つ職人と一緒にものづくりをする体験学習の場として実施した。

参加者には温泉たまごを進呈

日本ガス㈱主催の催しでは、毎回心温まる記念品を参加者に進呈しており、今回は栄養・消化に富んだ「温泉たまご」をプレゼントし、参加者に喜ばれた。

小田隆二課長によるとこの温泉たまごは、同社のガス空調を導入している㈲永田鶏卵から提供されたもので、箱詰めされた温泉たまごは30個入り。

思わぬプレゼントに参加者の一人は「季節の変わり目で社内に風邪気味の社員が多い。早速持ち帰り、みんなで栄養補充をしなければ」と笑顔で語っていた。

ネルギー事業部の松原為敏課長が「ガス空調・コージェネシステムの概要とメリット性」と題して講演。その中で、コージェネシステムのメリット性として排熱利用でエネルギーを有効利用することができ、省エネ・省コストが図れることを分かりやすく解説。また、ガス空調と電気式空調との比較や都市ガス利用設備に対する優遇税制などについても説明した。

また、同エネルギー事業部の佐々木威副課長が「間違いだらけの厨房計画」と題して、厨房計画における誤解や最新の業務用ガス厨房機器の紹介、最適厨房計画などについて解説し、参加者らは真剣に聴き入っていた。